

INDEX関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご利用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

INDEX関数の「役割」とは？

INDEX関数の「役割」とは？

INDEX関数は、指定された範囲の中から、「座標（行・列）」にあるデータを取り出す関数です。「地図の座標」を指定するイメージを持つと分かりやすいです。

=INDEX(配列, 行番号, [列番号])

引数	内容	設定例
① 配列	データを検索する範囲全体	A2:E10
② 行番号	上から何番目か	3（3行目）
③ [列番号]	左から何番目か	2（2列目）

数式例: =INDEX(A2:E10, 3, 2)

→ 範囲内の「3行目・2列目」にあるデータを返します。



ポイント: これ単体では「何行目か」を手動で指定せねばならず不便ですが、他の関数と組み合わせることで最強の関数に進化します。

【比較】 VLOOKUP vs INDEX+MATCH

【比較】VLOOKUP vs INDEX+MATCH

なぜ、MATCH関数と組み合わせてINDEX関数を使う必要があるのでしょうか？それは、VLOOKUP関数の「弱点」をすべて克服できるからです。

特徴	VLOOKUP関数	INDEX + MATCH関数
検索方向	左端から右側のみ	左右どちらでも検索可能
列の挿入	列を追加するとズレてエラーになる	列を追加してもズレない
処理速度	データ量が多いと遅くなる	必要な列だけ参照するため速い
複合検索	縦方向の検索のみ	縦×横（クロス集計）の検索が可能

 **結論:**「列の挿入で数式が壊れるのが怖い」「左側のデータを検索したい」という時は、INDEX+MATCHの出番です。

【基本形】 INDEX + MATCH の黄金パターン

【基本形】 INDEX + MATCH の黄金パターン

INDEX関数の「行番号」を、MATCH関数（検索機能）に自動入力させる。これが実務で使われるパターンの9割です。

構文のイメージ： `=INDEX( [欲しいデータの列], MATCH( [検索値], [検索する列], 0) )`

シナリオ： 社員名簿のC列（氏名）から「田中」を探し、A列（社員ID）を取り出したい。（VLOOKUPでは不可能！）

数式： `=INDEX(A:A, MATCH("田中", C:C, 0))`

解説：

1. `MATCH("田中", C:C, 0)` → C列から「田中」を探し、上から何番目か（例：5）その位置を特定する。
2. `INDEX(A:A, 5)` → MATCH関数の結果として指定されたA列の「5番目」のデータを取り出す。

【応用】 「縦×横」 の2次元検索（クロス集計）

【応用】「縦×横」の2次元検索（クロス集計）

INDEX関数を使えば、「商品名（縦軸）」と「月度（横軸）」が交差するセルの値を取り出すことも可能です。

数式： =INDEX(データ範囲, MATCH(縦の検索), MATCH(横の検索))

解説：

- 行番号：MATCHで「商品名」など縦軸の検索値が何行目かを探す。
- 列番号：MATCHで「月度（例：4月）」など横軸の見出しが何列目かを探す。
- INDEX：その交点にある売上金額を抽出する。

これができれば、検索値と見出しを使い、マトリクス表からのデータ抽出も自由自在です。

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。